

東高通信

令和3年度 6月号

今月の記事

- ・6月の予定
- ・各学年より

部活動大会もたけなわですが、今月末には期末考査があります。しっかりと計画を立てて勉強しましょう！また、計画倒れとならないように、自分のこともしっかり分析した計画を立てましょう。

日	曜	学校行事等	学年・進路・生徒指導	生徒会・部活動関係
7	月			
8	火	内科検診④、尿検査③	2学年PTA	バドミントン地区総体(~9日)
9	水		3学年PTA 県北地区自転車一斉指導	
10	木		↓	
11	金	教育実習3週間終了		卓球地区総体①、野球県北選手権(~14日)
12	土	GTEC		サッカーF1F3リーグ、弓道地区総体(~13日) テニス地区総体(~14日)、IHバスケ県大会(~15日)
13	日			柔道全日本ジュニア県予選
14	月			
15	火		交通安全教室	
16	水			
17	木			
18	金	【45分授業】	小論文模試(3年)	陸上東北大会(岩手、~22日)
19	土			ソフトボール地区総体(~20日)、剣道地区総体(~20日)、県北地区演劇コンクール(~20日)、 サッカーF3リーグ、柔道地区総体、バレー地区総体(~21日、女子本校会場)、卓球地区総体②(~20日)、バスケU18リーグ戦(~20日)
20	日			
21	月			
22	火	内科検診⑤	1学年PTA	
23	水	学校評議員会		
24	木			県音楽祭(吹奏楽)
25	金	創立記念日		陸上地区総体(~27日)
26	土	土曜学習会		サッカーF1F3リーグ
27	日			
28	月	期末考査①	部活動・委員会写真撮影(~7/1)	
29	火	期末考査② PTA後援会① 前期学校保健委員会		
30	水	期末考査③		

—各学年より—

3学年

努力

3年6組担任 長野 高広

私が以前勤務していた高校の野球部で、楽天イーグルスからドラフト指名を受けた生徒がいました。彼は最速144kmの速球を投げる本格派右腕でしたが、楽天イーグルスのスカウトの評価は次のようなものでした。「140km以上の球を投げる高校生はたくさんいます。私たちが評価したのは、彼の内面です。味方がエラーしても不満そうな表情は一切見せない、ピッチング練習をしたマウンドは必ず自分で整備する、そうした姿勢はプロに入ってから教えられるものではありません。」なるほど、プロのスカウトはそういうところも見ているのだ、と言うよりも、そういうところを見ていたと驚いたと同時に、次の言葉を聞き納得しました。「プロに入った後も努力を継続できるかどうか重要です。全国から才能が集結するプロの世界でも、基礎的基本的なことができずに去っていく人間は少なくありません。彼ならどんな状況でも手を抜かずに努力を継続できる人間だと判断しました。」

さて、高校3年生の6月、みなさんは今どのような気持ちで学習に向かっているでしょうか。勉強はしているけれどなかなか模試の成績が上がらない、特に苦手科目の得点が上がらないと不安を感じている人も少なくないかもしれません。しかし、焦っても何一つ良いことはありません。今は地道に学習を続けるのみです。上述のプロ野球を例にとるならば、最終的に成果を上げることができるのは努力を継続できる人間です。そして、せっかく苦しい努力をするのならば、正しい努力をしてほしいと思います。英語を例にとると、英単語の日本語訳だけをひたすら覚え、四者択一式のドリルを何度も繰り返せば英語力が伸びると考えている人がいるかもしれませんが、今みなさんに求められているのはそのような付け焼き刃の英語力ではありません。英語の読解力を伸ばすためには、何百もの長文を読む必要があります。今日から計算し、一日に2つの長文を読んで、入試までにいくつの長文が読めますか。一日に1つだけだったら...週末は一日に3つの長文を読んだら...このように、今自分に必要なことを考え、目標を立て計画的に学習してください。

最後に、学力に関する言葉を一つ紹介します。

『学力』とは授業や本から得られる知識だけではなく、生徒個々人のそれまでの『読書経験』『思考経験』『実体験に基づく知識』『語彙力』『論理的思考力』などの総体のことだ。」今みなさんに求められているのは、まさにこのような力なのだと思います。そして、このような力を身につけるために、まずはスマホ(SNS)と適切な距離を保つことが重要です。今の時代、スマホの使用時間を制限することも学力向上の一つの手段と言われていますし、スマホの使用時間を管理できない人が学習時間を管理できるはずがありません。あのスティーブ・ジョブズも自分の子どもには使用を制限していた(小さい頃は一切使わせなかった)のは、その楽しさ・便利さの裏に潜む危険性を誰よりも理解していたからでしょう。

残り8ヶ月、みなさんが正しい努力を重ね、それぞれに合った学力を身につけることを信じています。



2学年

秘剣、電光丸

2年2組担任 小野 桃子

ドラえもんにこんなエピソードがあります。タイムマシンでサムライの時代に行ったドラえもんとのび太。ひょんなことから、若者に剣の達人と思われてしまいます。弟子にしてくれるまで動かないと粘る若者。困った2人が逃げ出すと、「走って足腰を鍛える修行ですな！」と喜んでついて来ます。途中でのび太が転ぶと、「転んで痛さを我慢する修行ですな！」と若者も転ぶ。ほとんど困ってしまう2人…。

結局、ドラえもんの道具の力を借りて、若者は、剣豪、宮本武蔵へと成長を遂げるのですが、私は、この若者はドラえもんがいなくてもいずれ剣豪になったのではないかと考えています。それは、「何のためにこの修行をするのか」を自分で考えられる人だからです。「走れ」と言われたから走ると、「走ることで足腰が鍛えられ、剣の上達につながる」と思って走るのでは、同じ「走る」という行動でも、それに向かうモチベーションは大きく変わり、それが結果にも影響してくるはず。部活動でも、先生や先輩に言われたメニューを何も考えずに行うのと、「なぜこの練習が必要なのか」を理解した上で行うのでは、結果に大きな差が出て来るはずですね。勉強だって、「先生に怒られるから」「成績が下がるから」課題や単語テストに取り組む人と、「なぜ今この課題が必要なのか」を考え、必要性を理解した上で取り組む人とは、取り組み方や結果に大きな差が開くでしょう。

東高の生活は忙しいので、そんなこといちいち考える時間はない、という人もいるかもしれません。目の前の課題をクリアするので精一杯という人も。ですが、練習が始まる前の5分間、課題を開く前の10秒間で構いません。「なぜ今、この練習、この課題をやっているのか」を考えてみてください。その積み重ねがきっと皆さんの大きな力になると思います。



速報です。

ソフトボール部(男子)が、福島県高等学校体育大会で準優勝に輝きました。サッカー部、剣道部(男子)がベスト4に、柔道部(男子)がベスト8に入りました。

また、個人では、弓道部3-7鈴木幹士くんが第4位、剣道部3-5渡邊旭くんがベスト8、柔道部2-1月舘龍之介くんが60kg級第2位、3-3佐久間颯大くんが66kg級ベスト8、1-2小手森建斗くんが73kg級ベスト8、陸上部2-1安齋由一郎くんが100mで第2位、1-2長峰礼さんが走高跳で第5位、3-7鈴木諒くんが800mで第7位、3-7遠藤滉己くんが1500m第7位、3-7奥野陽太くんが3000mSCで第8位と、「文武両道」の東高生が大いに活躍しました。

今後も、県総体、新人戦と続きます。数多くの部活動の活躍を期待しましょう。

1学年

考える時間

1年2組担任 地歴科(日本史)担当 高橋 洋充

この春着任した高橋です。2ヶ月たち、日々順応しつつあることを実感していますが、せっかくなので、新参者なりの本校の印象や、それを通して考えたことを書きたいと思います。

まず、本校勤務のなかで感激していることを列挙します。

- ・生徒たちのさわやかな挨拶
 - ・校舎が大きくて綺麗
 - ・放課後や週末もグラウンド・体育館・教室が活気に満ちている
 - ・いたるところに生徒たちの素敵な作品が展示されている
 - ・図書館がとても充実していて、さらに校長室前をはじめ、学年ごとに「文庫」が設置されている
 - ・保健室をはじめ、教員たちが生徒一人ひとりを気にかけている
- …枚挙に暇がありません。生徒の皆さんにとっては当たり前のことでも、決して「フツー」ではないのです。

本校は「文武両道」で広く知られていますが、単純に「文」=(受験)勉強、「武」=部活動ではなさそうです。特に、校舎に溢れる作品や本は、本校の文化度の高さと教養の深さを示していると思います。本校の「文」とは、リベラル・アーツのことだったのです。また、違う角度で見ると、「武」は部活動の競技力だけではなく、チームワークやコミュニケーション、継続して努力する姿勢など、「数字で計れない、可視化しにくい力」を育む活動、ととらえることができます。そう考えると、「文武」はどちらかに偏るものではなく、そもそも一体のものであるといえるでしょう。本校は、テストなどで計量・可視化できる「見える力」と「見えない力」を高いレベルで同時に学ぶ学校なのです。

一方、気になるところもあります。生徒たちは登校してから朝自習・授業・部活動と、ずっと誰かと何かしらの活動をしています。それは「充実」ともとれますが、「息をつく暇も無く忙しい」とも言えます。これは教員も同じで、たいへんキケンな香りがします。ちがう表現で例えると、一流のシェフが創意を凝らした栄養価の高い健康的な料理でも、よく噛んで、飲み込むことができなければ、かえって体を壊してしまいかねない、ということでしょうか。私事ですが、私は長期入院の経験があり、そのとき、深く考えるには「ひとりで、時間をかけて」が必要だということに気づきました。

では、どうすれば良いのでしょうか。もし一日の授業のうち、自分で何をしてもいいフリーな1時間があったら? 「自習」という言い方に不安を感じるならば、「深く考える時間」として、作為的に余白をつくる、ととらえたいかがでしょうか。心身ともに健康がいちばんです。自戒を込めて提案します(誰に?!)。

ともあれ本校は、生徒たちも教員団も、好きなことを思う存分できる雰囲気がとても素晴らしいです。「今日は 明日の歴史」とうたう校歌も、とても素敵です。今日と同じ明日が来るとは限らない、不透明で不安な時代です。「開かれた道をゆく」だけでなく、自分のアタマで考え、「道を開く」人になれるよう、ともに「新しい伝統」を創ってみませんか。

